

# ■第36章

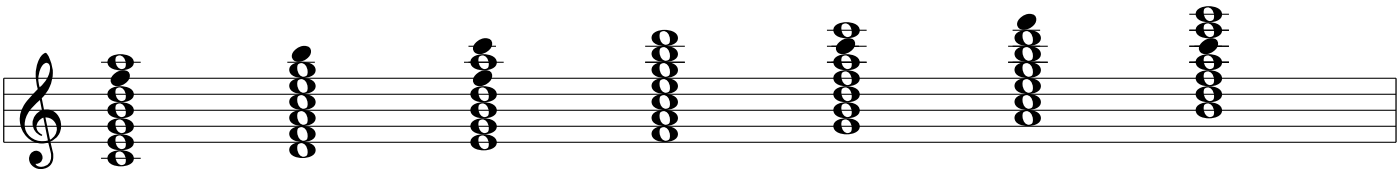
- 1) アボイド・ノート(avoid note)
  - 1-1) 長調のテンション・コード
  - 1-2) 短調のテンション・コード

## 1) アボイド・ノート(avoid note)

次はメジャー・スケールのダイアトニック7thコードと、全てのテンション・ノートです。これらのうち、黒い音符は不協和な響きのため持続するコード・サウンドとしては除外すべき音として考えられ、それを「アボイド・ノート」(avoid note)と呼びます。

example 36-1

(アボイド・ノート= ● )



アボイド・ノートは「コード・トーンとの音程が短9度」、もしくは「コードの機能を曖昧にする」事が条件としてあげられます。

まず「コード・トーンとの音程が短9度」のアボイド・ノートについて見てみましょう。次の「9th」「11th」「13th」のテンション・ノートを、トライアドの「1st」「3rd」「5th」から数えた時、それらは「長9度」もしくは「短9度」の位置関係にあります。

example 36-2

「 9th 」                      「 11th 」                      「 13th 」  
 「長9度」                      「短9度」                      「長9度」

: CM7,9,11,13      : root      9th      :      3rd    11th      :      5th    13th